

ニホンジカは2週間で忘れる説は本当か

(職員実行による有害鳥獣捕獲の取組から)

利根沼田森林管理署 新井 健司

中村 聖子

1 課題を取り上げた背景

当署では、平成28年度から職員実行によるシカの捕獲を毎年春と秋の2回実施しています。これまでの捕獲の取組やセンサーカメラによるモニタリングの結果について報告します。

群馬県の野生鳥獣による森林被害ですが、平成30年度の被害額は約2億4千万円でした。獣種別では、ニホンジカが最も多く52.3%を占めています。当署でも造林地の食害や剥被被害が目立っています。

利根沼田地区でのシカの日撃効率は、群馬県の平均より高く、特に沼田市利根町、昭和村では高い値を示しています。昭和村は農業が盛んなところであり、村として農地と森林の間にフェンスをもうけて野生鳥獣の侵入を防いでいます。このような状況から、署としても対策の必要性を感じ、昭和村での有害鳥獣捕獲を行うことにしました。

2 具体的な取り組み

(1) 猟友会の協力

当署では捕獲を始めるにあたり、昭和村及び地元猟友会への説明、協議を行い、事業について理解を得たうえで実施しました。職員実行による有害鳥獣捕獲には、くくり罠を使っています。しかし、職員は狩猟に従事した経験はありませんので、罠の設置や見廻りについて、昭和村猟友会の皆さんに協力してもらっています。



(猟友会昭和支部の皆さんとの打合せの様子)



(猟友会昭和支部の皆さんと罠の設置の様子)

(2) 捕獲を実施する際の工夫

経験が無くても安全に作業ができるように器具の工夫や誘引捕獲法に取り組みました。

① 止めさし作業の負担の軽減

「止めさし」とは、捕獲した獲物の命を絶つ作業です。一般的には刃物を用いますが、刃物は技術が必要なうえ経験の少ない職員には危険を伴うこととなります。

捕獲した獲物に苦痛を与えず、安全かつ速やかに行うために電気止めさし器を自作して使用しています。

② 保定具作成

止めさしを行うにあたり、シカの動きを止めたうえで行います。安全な距離を確

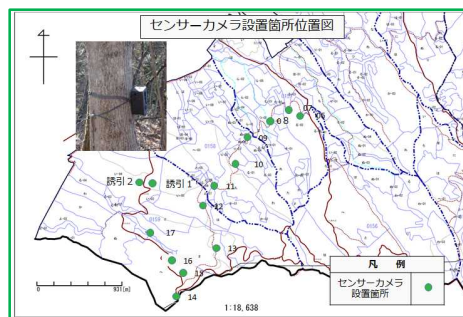
保して保定できるように、工夫して自作したものを使用しています。

③ 誘引捕獲法の導入

通常のくくり罠では、設置には経験に基づく技術が必要ですが、誘引捕獲ならば獣道以外でも設置できることに加えて、捕獲効率も高いとの情報から導入しました。

(3) センサーカメラによるモニタリング

平成 30 年 5 月からシカの動向を把握するため、14 台のセンサーカメラを設置してモニタリングを行いました。



(図-1 センサーカメラ設置位置図)

3 取り組みの結果

(1) 職員実行による有害鳥獣捕獲

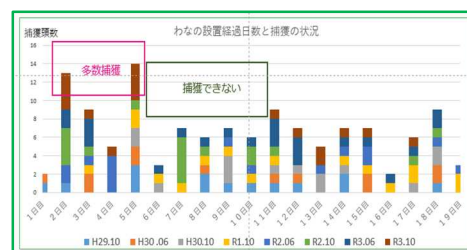
6 月と 10 月にそれぞれくくり罠を 100 基設置して、3 週間ごとに行いました。

誘引捕獲法を試行的に取り入れ、6 月に 6 基、10 月には 20 基に増やしました。その結果、令和 3 年度は 39 頭を捕獲し、群馬県ニホンジカ適正管理計画に基づく目標をほぼ達成できました。

また、誘引なしの捕獲と比較したところ、誘引捕獲法は 2.3 倍も高い捕獲効率でした。

(2) ニホンジカは 2 週間で忘れるか

ニホンジカは人の気配を感じとり、危険を察知して逃げるのかと思います。2 週間すると忘れて戻ってくるという説です。過去 4 年間の捕獲状況を検証すると、やはり第 1 週に多く捕獲し、第 2 週では捕獲できない傾向が確認できました。



(図-2 捕獲初日から終了日までの捕獲の状況)
(H29.10~R3.10)

また、センサーカメラのモニタリングでは、捕獲エリアの中心地、捕獲エリアの端の箇所、捕獲エリア外で出現頭数を比較すると、捕獲エリアから離れた場所では影響はありませんが、捕獲エリアでは捕獲が始まるとシカは警戒して近寄らなくなり、終了するとまた戻ってきているようにみえます。捕獲期間中はシカが警戒していたのではないかと考えられます。

4 まとめ

令和 3 年度から誘引捕獲に取り組んだ結果、高確率で捕獲に成功しました。また、わな設置から 7 日以内と短期間で捕獲できました。今後は、捕獲効率の高い誘引捕獲法のわなを増やし、短期間で設置箇所を見直すことで、捕獲制度の向上につなげ、わなの総設置数を減らすことができると考えています。また、それにより ICT 活用機器の導入も検討でき、見廻り業務も軽減できると考えています。

「シカは 2 週間で忘れる」かについて、センサーカメラにより確認しました。その結果、捕獲を開始すると、区域内の出現頭数が低下し、終了すると、戻っていく傾向が確認できました。これにより、ニホンジカは警戒心が強いことがわかりました。

スレ個体をつくらないために、気配を残さないようにわなを設置し、確実性や効率の高い捕獲事業を目指していきます。